

「考えを伝える力を育てる」

第1学年 算数

「10より 大きい数」の実践を通して



十日町市立西小学校 教諭 山岸 千穂

1 はじめに

4, 5月の頃, 担任した1年生の子どもは, 算数の学習に対し, 教師に言われたとおりに操作をして答えを出したり, 発表したりできればよいという傾向が強かった。

そこで, 操作活動を基にした説明の場を設定し, 発言の機会を増やすことで, 「考えを伝える力」を育て, 教師主導で学習を進めていくだけではなく, 多様な考えのよさに気づき, 友だちと共に学習を進めていく楽しさを感じることができる授業を目指した。

2 授業づくりの視点

(1) 操作活動を基にした説明の場の設定

(個人→全体)

①全体でよりよい考え方を探り, 課題を解決するために, クラス全員を話し合いに参加させたい。そのためにもまず自分の考えをもつことができるようにする。既習事項やキーワードを授業の初めに全体で確認し, 以前に学んだこととつなげてブロックで操作をしたり, 図や言葉で書くことができるようにする。

②説明するときは, 主張(～は～です。)→理由(だって～ですよ。)→主張(だから～は～です。どうですか。)という話型を取り入れる。

このことで, 発表者には相手意識をもたせ, 聞き手には説明に参加しているという意識をもたせるようにする。

(2) 考えを伝え合う方法や場の設定

ペア学習を取り入れ, 全員に自分の考えを発言する場を設定したり, リレー方式で説明をつなげたりして, 多くの子どもに発言の機会を保障する。

共感的な雰囲気づくりや聞き方指導とともに, 自分の考えを発言することは, みんなの学習のためになるというメッセージを繰り返し伝える。

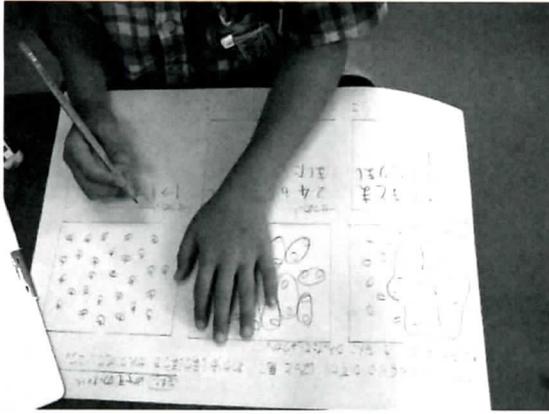
3 授業の実際

問題 どんぐりをなんこひろったでしょうか。

子どもは, ばらばらにちらばって置かれているどんぐりの写真を見ながら, どうやって数を数えて表したらよいか考えていった。

○ 既習事項や, キーワードによる見通し(1)①

次の「20までの数では, 10のまとまりといくつに分けて数えると便利であること」を確認した後, 自力解決の時間をとった。18人中16人の児童が, 最初に1こずつ数えて10になったら線で囲み, 10のまとまりとばらで数える方法を選んで答えを求めていた。時間が余った子どもは, 2とびで数える, 1つずつ数える, ブロックを置いて数えるという方法を試していた。



○ 話型を用いた説明(1)②

(主張)

どんぐりの数は、28こです。

(理由)

2とびでかぞえました。これで2ですよ。
(チョコの指を作って数える) 2, 4, 6, 8, 10, 2, 4, 6, 8, 10, 2, 4, 6, 8です。

(主張)

だから、10と10と8で28こです。



(主張)

どんぐりの数は、28こです。

(理由)

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10。これで10こですよ。1, 2, ... 10。これで10こですよ。1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8。8こありますよ。

(主張)

だから、10のかたまりが2ことばらが8こで28こです。



○ 考えを伝え合う方法や場の設定(2)

どんぐりをブロックに変えて数え、ぱっと見て数が分かる置き方を説明し全体で共通理解する。



10のまとまりが2こだと、20だよ。

この8は、ばらが8こってことだよ。



どこまで説明するのか。次は、私がやりたいな。

この2は、10のまとまりの2ですよ。8は、ばらが8こですよ。だからどんぐりは、28こです。

4 おわりに

本単元では、10のまとまりを作るという操作と言葉をつなげて考えを説明する活動や、友達と考えを伝え合う活動を取り入れた。最初は自分の考えを言葉で説明できなかった子どもも、ペアで考えを出し合ったり、友達の発表にヒントを得たりして、自分の考えを説明できるようになった。更に、いろいろな考えをもつために、主体的に友だちの説明を聞こうという態度も育ってきている。